

謹賀新年 今年こそ自公政権からいのちと暮らしを取り戻しましょう！ 政策実現と選挙戦勝利を！

社民フォーラムしもきた代表 目時 睦男

明けましておめでとうございます。
一昨年2月自公政権に変わる政権樹立を目指し、苦渋の判断で社民党下北総支部を解散し立憲民主党への移行と共に、社会民主主義の理念・政策の運動発展を期し「社民フォーラム下北」を起ち上げましたが山積する課題への活動不足を痛感しながら現在の立憲民主党は地域住民を巻き込んだ大衆運動不足があることから社民フォーラムの運動強化が重要性を増していますし、地方統一選、知事選、市議選があります。政策実現と選挙戦勝利に結束して取り組むことをお願いし、年頭の挨拶といたします。新年あけましておめでとうございます。



謹んで新春のお慶びを申し上げます

むつ市議会議員 杉浦 弘樹

日頃より「すぎうらひろき」の活動に對しまして、御支持御支援を賜り誠にありがとうございます。昨年の夏に行われた参議院選挙におきましては、皆様方から多大なる御支援を賜り、田名部匡代参議院議員の2期目の当選ができましたことに改めて感謝申し上げます。これからも政権与党に對峙し、国民生活向・のため、田名部匡代参議院議員と共に活動をしていく所存でございますので、御理解賜りますようよろしくお願い申し上げます。今年は、統一地方選、知事選と重要選挙がある選挙イヤーであり、私自身も秋にはむつ市議会議員選挙を迎えます。これまでは、1年生議員として右も左もわからない私に、皆様方から心温まる御指導いただきてまいりましたが、今年は2期目の当選へ向け精進して参りますので、これまで以上に「すぎうらひろき」への御支持を賜りますようよろしくお願いいたします。



【事務局より】新年早々、宮下市長の知事選立候補が報じられ、「フォーラムニュース」も紙面の編集（と言っても新聞記事の切り抜きですが…）に苦慮して発行が遅れました。また、上記の2名の年頭あいさつも6日以前にいただいたため、市長選には触れていません。昨年12月むつ市議会の異常とも思える与党系7議員から「宮下新知事誕生コール」的な一般質問が続いており、いかにも不自然な様相を呈していました。こうしたことから今日の場面は予測できましたが、よもやこの時期とは思いませんでした。そんなことで少しチグハグな紙面です。ご諒解ください。



なんか、こっちのおじさんの方が…

《新年ご愛読者プレゼント企画》

〜〜あなたの大切な写真で「オリジナルカレンダー」を作ませんか〜〜

- ◆ あなたのお気に入りの写真を送っていただければカレンダーにしてお届けします。（写真は普通サイズでOKです）
- ◆ 原価分として84円切手3枚を添えて写真を郵送して下さい。1週間程度でお届けします。（〆切1月末日）
- ※ 写真はスマホやデジカメのファイルをメール送信でも良いです。この方がより鮮明になります。）メールアドレスはこちらです。

nobuo@kra.biglobe.ne.jp

- ◆ A3サイズ（297×420mm）でカラー光沢紙で作成します。



◆ 写真の送付先

〒035-0051 むつ市新町 17-23
栗 橋 伸 夫

今年は統一地方選、県知事選、むつ市議選と選挙が連続します。

そして、宮下市長が知事選立候補を表明したため、市長選挙も実施されます。

今年は統一地方選など各種選挙が目白押しです。当面は4月9日投票の県議選の対応が注目されています。とりわけ、むつ下北選挙区は越前議員の勇退が報じられ、自民党は堺大間町議を推薦候補としました。選挙区内の自民党3議席の独占は許さない立場から、立憲民主党むつ下北支部も対応を検討中です。4月23日には郡内の町村議員選挙も予定されています。立憲民主党むつ下北支部長の能登勝彦風間浦村議は再選を目指しています。

また、先日6日には6月に予定されている青森県知事選に宮下むつ市長が立候補を表明しました。これに伴い、必然的に、むつ市長選挙も行われることとなります。正式に辞職した場合は50日以内に市長選となります。三村現知事の去就と共に自民党サイドの対応が連日マスコミを賑わしています。また、立憲民主党青森県連や市民連合あおもりなども独自候補の擁立を検討しているとの報道もあります。

4月	県議選（9日投票） 町村議選（23日投票）	このゾーンにむつ市長選（辞職日により決まります）
6月	知事選（任期満了 28日 投票日未定）	
10月	むつ市議選（任期満了 28日 投票日未定）	

三村氏はどう動くか、そして小野寺青森市長は？自民現職衆議院議員は？ 1/6 デリーー東北

宮下氏 知事選出馬へ

周辺に意向、近く表明

むつ市長3期目途中

知事選

'23あおもり

6月に任期満了を迎える青森県知事選で、むつ市長の宮下宗一郎氏（43）が出馬の意向を周辺に伝えていることが5日、関係者への取材で分かった。近く正式表明する見通し。知事選を巡り、立候補の動きが明らかになるのは初めて。現職で5期目の三村申吾氏の去就に注目が集まる中、現県政に対する批判の受け皿として、任期途中での挑戦を決意したとみられる。



宮下宗一郎氏

一方、昨年12月の市議会、馬を促す声が相次いだ。議定例会の一般質問では、複会内の待望論に対し、「市数の市議から知事選への出政への期待として承っており、現在3期目。

与野党動き加速か

膠着状態に新たな局面

現職知事の三村申吾氏の進退を巡り、青森県政与野の自民党県連と三村氏の探り合いが続く中、知事選で新たな動きが表面化した。

宮下氏は3期9年間で「下北オパーク」の認定、同市の使用済み核燃料中間貯蔵施設の燃料に課税する「核燃新税」の導入などに注力。2020年の「Go Toキャンペーン」では、国に対する働きかけを絶えず、全国的な注目も集めた。

宮下氏はかねて知事選への意欲が取り沙汰されてきた。昨年の市長選への対応でも、出馬表明は告示の直前で、臆測を呼んだ経緯がある。

誰一人出馬を表明してこなかった異例の知事選。与野の候補者選考は膠着状態が続いてきたが、独自候補の擁立を模索する野党も含め、知事選を巡る動きが一段と加速している。

一方、これまで三村氏を支援してきた自民県連は昨年、支援する候補者を決める選考委員会を設置。三村氏の意向確認と並行し、後継候補の擁立を含めて主体的に選考を進めていく方針を示している。

三村氏が最終判断を明確に示さない状況に、津島会長は「知事という重い職責を経験した方だからこそ、あるべき」と推し進めるが、ある県連幹部は「仮に引退しても自分が応援できる候補者かどうか、県連の人選を見極めていくのだから」と推測する。

自民の候補者選考を巡っては、現在、県出身の官僚を中心に人選を進めている。県連幹部は「ここからは、そんなに長い時間はかからない」と選考が進みつつある状況を明かす。

東京大の先輩、後輩の間柄で三村氏に近いとされる青森市長の小野寺易彦氏は「三村学校の門下生」を自称する。同じ県内首長の宮下氏が浮上することで、三村氏の後継的存在として注目が集まる可能性もある。

三村氏が最終判断を明確に示さない状況に、津島会長は「知事という重い職責を経験した方だからこそ、あるべき」と推し進めるが、ある県連幹部は「仮に引退しても自分が応援できる候補者かどうか、県連の人選を見極めていくのだから」と推測する。

三村氏が最終判断を明確に示さない状況に、津島会長は「知事という重い職責を経験した方だからこそ、あるべき」と推し進めるが、ある県連幹部は「仮に引退しても自分が応援できる候補者かどうか、県連の人選を見極めていくのだから」と推測する。

針だ。今月7日には初会合を開く。勇退へ環境整備を進める三村氏は最終判断を正式に表明しておらず、県連による意向確認も具体的な進展は見られない。三村氏と津島淳良連会長は昨年末に電話で会談したが、三村氏は「今は熟考中」と答えたとしている。

小野寺青森市長含み

紙面のスペースの都合
で記事の並びがバラバラ
になっています。



宮下氏 9月に決断

出馬表明「県を前進」

正式に出馬会見を開く。

宮下氏は「出馬に当たって、市を市長を辞職して退路を断つ」と強調。6日朝、市の幹部職員に辞職する意向を伝えたといふ。

辞職の時期については、来年の予算編成にめどを付けた上で決めたいと述べた。

三村県政評価も「閉塞感」

定例会見で青森県知事選への出馬を表明する
宮下宗一郎氏11月6日、むつ市役所



現職の三村申吉氏の県政運営については「さまざまな分野で実績があるのは事実。胆振に発展している分野は路線を継承することが大切だ」と評価。ただ、県の現状を「閉塞感がある」と指摘する場面もあった。

政兄への支援要請については今回は明言しなかった。知事選の構図がまだ定まっていないことを踏まえ、「誰と戦うかを問題にするのではなく、戦いの大義は青森県の未来。県民の暮らしをどう改善するか」と強調。三村県政やそれを支えてきた勢力との対決姿勢を薄めたいとの思惑もにじんだ。

昨年5月に無投票で市長3選を決めてから、わずか半年で市長職を辞することについては、「正式な出馬会見でしっかりと思いを伝えたい」と述べるにとどめた。

宮下氏はむつ市出身。東北大学法学部を卒業後、国土交通省へ入省。父で前市長の順一郎氏の死去に伴う2014年の市長選で初当選。現在3期目。

「市長」

宮下氏一問

むつ市の宮下宗一郎市長が6日の定例会見で、青森県知事選への出馬を表明し、「市長を辞職して退路を断つ。県民に覚悟を示す」と強調した。具体的な辞職時期は明らかにしなかった。報道陣とのやりとりは次の通り。

―知事選に出馬する意向か。

出馬への意欲を周囲に伝えていたのは事実。出馬については市長職を辞し、退路を断つ。選挙をしながらの公務は不可能。全県民の皆さまに覚悟を示すことも必要。ただ、今はむつ市政を仕上げていくことと、青森県の未来を示す日を見極めている状況だ。

―出馬を周囲に伝えていたのは事実か。

宮下氏一問一答

市長辞職し覚悟示す

イミングは、20年間の長きにわたり、自分自身の進退に関する報道があつたので、それが事実であることと、辞職することとを幹部職員に伝えた。また、大澤次男市議会議長とも相談し、議会の日程をにらみながら、辞職の日を決めたいとお願いした。

―政党への支援要請は、今うまくいっている部分も

大義は県民の暮らし改善

現時点で選挙の構図が全く定まっていないが、誰と戦うかを問題にするのではない。大義は、青森県の未来、それから県民の皆さまの暮らしをどう改善するのかだと思っている。本県を大きく前進させることで、日本社会全体をけん引していく。そこに自身の志がある。

―三村県政に対する評価は。

発展の姿を描き、三村知事の功績を確かなものにする。これも自分の使命だと思っている。

―知事選出馬について、これまで「心の片隅にもない」との言葉もあつたが。

議会中に知事選のことを考える人間はいない。むつ市政を担う間は、むつ市政に集中するという趣旨で回答した。

(取材班)

取材班

立民は支援に含み 共・社、別候補

青森県内野党

むつ市の宮下宗一郎市長が、青森県知事選への出馬表明をしたことに対し、県内の野党勢力の反応には温度差が見られた。野党第1党として主戦論を唱えてきた立憲民主党は、あくまでも独自候補擁立を基本姿勢としつつ、政策や政治姿勢によつては「(支援を)検討する余地はある」と含みを持たせる。一方、共産、社民両党は宮下氏の核燃推進のスタンスなどを踏まえ「評価できない」とし、全く別の野党統一候補の擁立を模索する考えを示す。

立民県連代表の田名部匡代参院議員は「候補者を擁立して選択肢を示すことが大切。最後まで努力したい」と県連のスタンスを説明する。ただ、宮下氏に対しては「非常に優秀な人材」と評価。推薦願などの申し出があった場合の対応については、「仮定の話には答えられない」としつつ、「考え方や気持ちを聞いた上でということになる。首長選と国政選挙は違う。県の未来への思いを共有できれば、どなたでも検討の余地はある」と支援の可能性を否定しなかった。

宮下・むつ市長、知事選へ

昨年3選「辞職し退路断つ」

6月の任期満了に伴う知事選で、むつ市の宮下宗一郎市長(43)が6日、立候補する意向を明らかにした。定例会見で知事選への考えを問われ、「青森県を前進させることで、日本社会全体を牽引したい」と答えた。現在5期目の三村申吾知事(66)は、6選に向けた態度を明らかにしておらず、知事選に名乗りを上げたのは宮下氏が初めてになる。

6月任期満了 出馬表明は初

宮下氏はこの日、会見前を辞職する意向を説明しに臨時庁議を開き、市幹部らに知事選への立候補と市長



知事選に立候補する意向を明らかにした、むつ市の宮下宗一郎市長＝むつ市役所

発表するという。会見では、「市長を辞職して退路を断つ。全県民に覚悟を示す必要がある。議会の日程を見ながら辞職の日を決めたい。来年度の予算はしっかりと仕上げる」と語った。また、「誰と戦うかではなく、大義は県の未来、県民の暮らしをどう改善するか」と話した。

三村県政の評価については、「20年にわたり県政を支えたことに感謝し、敬意を持つている。様々な分野で功績があるのは事実。順調に発展している部分は、しっかりと継承することが大切だ」と述べた。

宮下氏はむつ市出身。2003年に東北大学法学部を卒業後、国土交通省に入り、東北地方整備局用地企画課長などを経て外務省に出向し、ニューヨーク総領事館領事を務めた。

市長だった父、順一郎氏の急逝を受け、14年の市長選に無所属で立候補し、初当選。18、22年の市長選は連続で無投票当選した。

昨年12月の市議会一般質問では、市議らが知事選への立候補を促す質問や発言をしていたが、宮下氏は「知事選のことが頭の片隅にあるかと言え、ない」と答弁し、市政に専念する考えを強調していた。

(高田誠)

一方、共産党県委員会の畑中孝之委員長は「市議会での言動を見ていると、県民の平和や暮らしを託せる政治家ではない」と指摘。野党や市民団体と協議の場を設け、別の候補者擁立の検討を進める考えだ。

社民党県連の今村修代表は「核燃推進の立場は政策的に相いれず、県発展につながらない」とし、他の野党統一候補を擁立する方向性を模索するという。

2015、19年と候補者を擁立した「市民連合あおもり」の大竹進共同代表は、原発や核燃の考え方は違うとした上で、「意見の違いを乗り越えて連帯できるか、今後示される県の将来像や政策などを見て考えたい」と述べた。

(取材班)

三村知事「慌てぬ」

6選への態度明かさず

三村氏はこの日、県庁で取材に応じ、宮下氏が知事選に立候補する意向を表明したことについて、「正式表明されたわけではなく、コメントは差し控えたい」と話した。自身の進退については、「急ぐものでも、慌てるものでもない。言うなれば、『しずかなること林のごとし』だ」と述べるにとどめた。

三村氏は、これまでの知事選で自民党の支援を受け、選挙前年の11月県議会で、自民県議からの質問に答える形で、立候補の意向を表明。しかし、昨年11月の県議会では、進退を明らかにしていなかった。

自民県連は12月、知事選に向けた候補者選考委員会を発足。その際、津島淳会



年頭の記者会見に臨む三村申吾知事＝4日、県庁

↑1/7 朝日新聞
1/7 デーリー東北
↓1/7 朝日新聞

12月8日、『太平洋戦争開戦81年』街頭宣伝行動を行いました。

1941年（昭和16年）12月8日、わが国がアメリカのハワイ州オアフ島の真珠湾を奇襲攻撃し、太平洋戦争へ突入してから81年になります。全国各地でもこの日を、あらためて不戦を誓う日として護憲団体、民主団体など

が集会を開催しています。むつ市でも「下北地域9条の会」が各団体に呼び掛けてマエダ本店前で街宣活動を行い、それぞれの代表がリレートークを行いながらチラシ配布活動を行い、当会からは栗橋が参加しました。



真珠湾攻撃当日の読売新聞夕刊⇒

「歴史の逆行」を許さない！
軍事費増強・敵基地攻撃能力保有の
「大軍拡」に反対！

9条改憲は許さないむつ市民集会アピール

「12月8日」は、かつての戦争の惨禍を思い起こし、同じ過ちを二度と繰り返さないことを改めて誓う日だ。77年前の敗戦のあと、人々は、他国への謝罪と死者への鎮魂の思いを平和憲法に込めた。不戦の旗を高く掲げる「9条」は、日本の宝であり世界の宝だ。しかるに今、岸田政権は、国権の最高機関である国会での論議をも欠いたまま、敵基地攻撃能力（反撃能力）保有、防衛費倍増など大軍拡への道に舵を切ろうとしている。日本の平和と安全を守り抜いてきた「9条」の決定的破棄につながる、安倍政権下での集団的自衛権容認にも等しい憲法破壊の暴挙だ。いつか来た道への回帰で、歴史の逆行だ。

私たちは今、戦後と戦前、「戦争しない国」と「戦争する国」との分岐点に立つ。敵基地攻撃能力は、集団的自衛権の行使としても発動される。政府の言う仮想敵国は中国と北朝鮮を指し、台湾有事が言われる中、アメリカが戦争に踏み切れば、日本への攻撃がなくても、自衛隊は集団的自衛権を発動して米軍とともに戦うことになる。既に、台湾有事を念頭に、防衛省は沖縄の防衛態勢強化のため陸上自衛隊の部隊増強などの検討を始めたと報じられている。



アメリカの戦争に巻き込まれれば、相手国の報復攻撃による国土の破壊が現実のものとなる。真っ先に攻撃されるのは米軍基地と狭い国土に林立する原子力発電所などの核施設だ。三沢米軍基地と六ヶ所核燃サイクル施設等を有する青森県はとりわけ危ない。

防衛費増大は、必然的に仮想敵国との際限の無い軍拡競争を引き起こす。日本経済と国民の生活を破壊することは目に見えている。

平和維持のために憲法が求めるのは真剣な外交努力など戦争を起こさないための積極的行動に徹することだ。

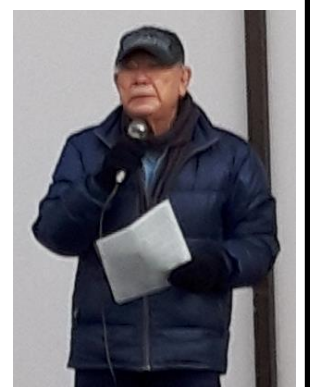
私たちは、日本が現憲法に基づく民主主義の国であると共に平和国家であって、「戦争しない国」であることこそ誇るべき使命であることを改めて確認し、岸田政権と与党による9条破壊の大軍拡と自衛隊明記の9条改憲阻止のため、立憲野党と市民との共闘の絆を更に強め、県内はもとより全国の仲間達と手を携えて闘い抜く。

2022年12月8日

9条改憲は許さない！むつ市民集会 参加者一同

追悼：木下千代治さん～やすらかに眠りください

下北地域9条の会設立（2016年7月）以来、共同代表を担ってきた木下千代治さんが去る12月1日89歳で他界されました。木下さんは佐井村長後地区の出身で全通青森地方本部委員長などを歴任、下北地方労働組合会議議長として長年にわたり労働運動の先頭で闘ってきました。その後、1975年4月の県議選（下北郡選挙区）に挑戦、1987年、4度目の挑戦で初当選、以後連続3期務め、2001年9月に大畑町長へ転身、その後も衆院選などにも当時の社民党の要請に基づき挑戦しました。政治家引退後も行政書士として市民の生活をサポートしながら憲法9条を守る活動を精力的に取り組んできました。「全国首長九条の会」「脱原発をめざす首長会議」メンバーとしても活動されていました。7月19日に体調を崩し入院加療を続けていました。謹んでご冥福をお祈りいたします。合掌



今年こそ、軍事大国ニッポンを許さず、平和創設の年に！

青森県の軍事施設と原子力施設

これだけの施設をもつ県は他に類を見ません。今こそ平和路線を世界に先駆けて発信しなければなりません。



安全保障関連3文書、閣議決定～日本の防衛戦略が激変

政府は、12月16日臨時閣議で「国家安全保障戦略」など右の3つの文書を決定。敵の弾道ミサイル攻撃に対処するため発射基地などを叩く「反撃能力」の保有が明記され日本の安全保障政策の大きな転換となります。

安全保障関連3文書

国家安全保障戦略	日本の外交・安全保障政策の基本方針。安倍政権が2013年に初めて策定。10年程度の期間を念頭に置く
防衛計画の大綱	日本の防衛のあり方と保有すべき防衛力の水準を定める。1976年から6回策定され、現大綱は2018年策定
中期防衛力整備計画	5年間の防衛力整備方針や主要装備の整備量などを定める。19～23年度の防衛関係予算の限度額は25.5兆円

1月からの通常国会が大きな山場となります

ほとんど国民的議論もなく閣議決定されたこうした防衛戦略は1月末からの通常国会の大きな論点となります。特に政府三文書の「反撃能力」には賛同できません。具体的には①「我が国に対する攻撃の着手」があれば、先制攻撃にあたらないとされているが、正確な着手判断は現実的には困難であり、先制攻撃とみなされるリスクが大きい、②「反撃能力の行使は、専守防衛の枠内」と述べているが、専守防衛を逸脱する可能性がある、などです。

政府が示した防衛費を5年間で43兆円、5年後にGDP2%の11兆円に倍増させる方針は、まさに世界第3位軍事大国化の大きな転換を意味します。国会での説明も議論もなしに、このような大幅増を決め、しかも歳出改革の具体的プランも示さぬまま、復興特別所得税を含む「防衛増税」を行うのは論外です。

新しい年の始めに

皆さんとの誓ひ

聖戦第六年のお正月を迎えました。日本はいま、聖國以
來の理想を世界に押しひろめる爲に、既に五年もの戦ひを
続けてゐるのです。然し戦争はまだまだこれからです。
幾十年かゝつても、石に嚙りついて、どうしても成し
遂げなければならぬ聖戦は、本當に皆さんのやうな少國
民の力で、その目的が達成されるのです。皆さんは心から
このことを覺悟しなければなりません。

過ぎた一年の間、皆さんは色々良い事をして來ました。
然し新しい昭和十七年には、皆さんはもつと勉強を
して、更に益々お國の爲につくさなければなりません。新
しい年を迎へるに當つて、皆さんはお友達と一緒になつて
是非共左のことを固く心に誓ひ合はうではありませんか。
一、早寝早起、規則正しい生活をして、一分の時間でも
も生かして使ひませう。

二、無駄遣ひを止めて、一錢でも多く貯金させよう。

三、物を粗末にせず、一枚の紙でも大切にしませう。

四、よく運動して、強い日本の少國民にならませう。

大政翼賛會

告廣納献・社會式株葉製治明

1942年（昭和17）新年の明治製菓の新聞広告

12月むつ市議会、最多の16名が一般質問、杉浦議員は大湊線存続への対応などを質問

第254回定例むつ市議会は16名の議員が一般質問に立ちました。**杉浦弘樹議員**は、ホタテ残渣問題のほかに大湊線の存続に向けて一般質問を行いました。大湊線沿線自治体など年内に設立する活性化協議会と国土交通省の有識者検討会が提言した協議会との関係について質問、市長

は「大湊線を永続的に存続させる必要性から先手を打ったもので国の対応などを見極めながら効果的に運用する。」と答えました。また、工藤祥子議員は原子力災害の避難対応やむつ中間貯蔵施設のオフサイトセンター問題などについて市側の態度を質しました。

《一般質問の概要～デリー東北東北より》

工藤祥子議員（共産）が原子力行政を質しました

質問① 市長が原子力規制委員会による核施設審査が遅いことを批判する論文を発表したが本意は…

答弁① 原子力規制委員会が行政手続法に定める標準処理期間をはるかに超えている状況を踏まえ科学的合理性に基づいた審査が重要ということで、これまで同様使用済み燃料中間貯蔵施設が原子力規制委員会の審査によって安全性を確認された後に事業開始されるべきという考えに変わりはない。

質問② むつ中間貯蔵施設のオフサイトセンターへの考え方は…

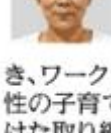
答弁② 青森県の考え方として当面は東通原発のオフサイトセンターで、その役割を担い大間原発オフサイトセンター完成後はそちらへ機能を移すと説明を受けているが、市としてはこれを了解とは考えておらず引き続き県へ独自のオフサイトセンター設置を求めているところである。

質問③ 東通原発に関わる避難態勢は十分と判断しているのか…

答弁③ 当市は東通原発から30km以内のUPZ区域に51,282人が居住し、事故の際は屋内待機が基本となるが、放射性物質が検出された場合はその量によって避難や一時移転の対象になる。避難先は青森市30,593人、五所川原10,665人、黒石6,430人、平内2,156人、市内川内1,438人の計画。また避難方法は陸路41,591人、海路9,691人、避難の際の要支援者は5,355人と想定。なお陸路に使用するバス所有台数は下北地域で170台、県内では1,602台であり災害時に県が事業者と調整を行う。自家用車での避難の想定は独自には調査していないが全国原発所在市町村協議会で実施した調査では85%程度とされている。



◇有田朱子議員（自民ク）
男女共同参画社会推進に対する市の取り組みを示せ。



▷角本力企画政策部長 市男女共同参画推進基本計画に基づき、ワークライフバランスの理解や普及、女性の子育て、介護と仕事の両立の定着に向けた取り組みを進めている。



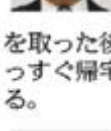
◇工藤祥子議員（無所属）
高齢者世帯の屋根の雪下ろし費用に助成すべきだ。



▷吉田和久総務部長 建築物などの財産は所有者によって維持、管理、保全されるべきで助成は行っていない。現在行っている除雪サービス事業を継続し、支援していきたい。



◇高橋直哉議員（未来への轍）
小中学生登下校時に全国瞬時警報システム（Jアラート）が発令された際の対応は。



▷阿部謙一教育長 避難行動を取った後、登校時は学校へ、下校時は真つすぐ帰宅するよう、保護者に通達している。



◇村中浩明議員（未来への轍）
釜臥山スキー場第1リフト更新後の利用状況を示せ。



▷立花一雄経済部長 2021年度は延べ17万7914人が利用し、20年度の13万7474人から29.4%増加した。「親子ペア券」の販売など取り組みが奏功した。



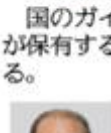
◇杉浦弘樹議員（無所属）
養殖ホタテの残渣対策に市の積極的な支援を求め。



▷宮下宗一郎市長 市内3漁協が一丸となって要望をまとめてくれば、財政的負担や技術的助言などを含め、積極的に支援していきたいと考えている。



◇斎藤孝昭議員（新風むつ）
ドローンを市が運用するに当たり、ガイドラインを定める意向はあるか。



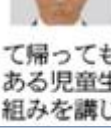
▷藤崎純デジタル行政推進監 国のガイドラインが発出されており、市が保有するドローンは全て国へ登録している。



◇東健而議員（市誠ク）
誘致した「むつBPOセンター」の導入効果を示せ。



▷吉田総務部長 雇用創出効果のほか、市が各種支援策に関する受け付けや問い合わせといった業務を委託したことにより、市職員の負担軽減に寄与している。



◇住吉年広議員（公明）
小中学生の携行品負担軽減の取り組みは。
▷阿部謙一教育長 市内小中学校では、教科書を学校に置いて帰っても良いこととするなど、成長期にある児童生徒の健康と安全に配慮した取り組みを講じている。



◇富岡幸夫議員（新風むつ）
市内の斗南藩史跡に観光案内板や駐車場整備を求める。



▷立花一雄経済部長 市内計7カ所の史跡には景観に配慮して看板を設置している。駐車場は、観光客の旅行形態の動向などを勘案し、総合的に整備の在り方を判断したい。



◇浅利竹二郎議員（自民ク）
災害対応時、青森県と市との間で齟齬（そご）を感じたことはあるか。



▷古屋敷均予防医療・感染症対策課長 昨年の豪雨災害時、防災安全課長として対応したが、自衛隊側に派遣要請が伝わらないなど、強く齟齬を感じた。



◇原田敏匡議員（未来への轍）
下北半島縦貫道路全線開通に向けた道の駅整備構想の見通しは。



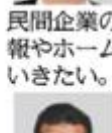
▷立花経済部長 2012年度に調査着手したが、縦貫道整備事業の延期などにより、道の駅整備事業も延期している。今後はゼロベースで検討したい。



◇野中貴健議員（市誠ク）
中学校部活動参加を任意制とした意図は。



▷阿部教育長 現代は多様性を認める社会で、生徒が自らの可能性を主体的に高めることの重要性を学んでいくため、自主的、自発的な活動となるよう促していきたい。



◇鎌田ちよ子議員（公明）
奨学金代理返還制度の周知を図れ。



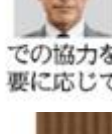
▷宮下市長 青森県の「あおもり若者定着奨学金返還支援制度」をはじめ、民間企業の取り組みなど官民における制度を、広報やホームページなどへの掲載を通じて周知していきたい。



◇佐賀英生議員（市誠ク）
市内の除排雪に、衛星利用測位システム（GPS）を導入したメリットは。



▷中里敏都市整備部長 除雪車の稼働日報処理が不要になり、リアルタイムで作業軌跡を確認できる。大きなメリットがあり、大幅な効率化が図られている。



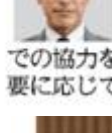
◇佐藤武議員（無所属）
「5歳児健診」実施を求める。



▷吉田由佳子・子どもみらい部長 子どもの認知行動特性や社会性の発達に気付き、早期支援につなげる機会として大切な健診だと理解しているが、スタッフの確保に課題がある。現状では実施が難しい。



◇佐藤広政議員（自民ク）
市民に対して節電要請する予定はあるか。



▷杉浦一徳民生部長 国は節電数値目標を設けておらず、無理のない範囲での協力を求めている。市からは要請しない。必要に応じて、国の広報を注視してほしい。



空白2年 地元関心薄く

2020年の暮れに突如浮上した使用済み核燃料中間貯蔵施設（むつ市）の共同利用構想。電気事業連合会は各社の燃料を施設に保管できるよう、地元の理解を得た上で検討を進めたいと、県、市に申し入れた。ただ、その後は動きが全く見られない。「空白の2年」に地元むつでは「共用案はもう白紙になったのでは」との声も聞かれる。2年前の12月17日、電事連が共同利用構想を表明。翌18日には電事連、経済産業省の幹部が

県庁とむつ市役所を訪れ、「県全体として貯蔵の補完性、柔軟性を高めることになる」「再処理事業と連携して運用することで核燃料サイクルの確立に資する」と共用案を説明した。日と同じくして関西電力が「検討に高い関心があり、積極的に参画したい」と表明した。共用案は、自社の原発が立地する福井県から県外での中間貯蔵を迫られている関電の「救済策」では一の見方が広がった。これまで「検討」に言及した社は

関電だけだ。県によるとこの2年、電事連や国から「説明したい」という打診はない（エネルギー総合対策局）。むつ市も同様で、地元議員は「新型コロナウイルスなど大きなニュースがあり、市民の関心は薄れた」と話す。中間貯蔵施設は、東京電力と日本原子力発電の2社がむつ市の誘致を受けて建設した。宮下宗一郎市長は共用案に当初から反発。今月の本紙取材に対し、「市は2社と協定を結んでいる。協定以外のことは基本的にはない」と語気を強めた。

電事連のほか、「前面に立つて主体的に取り組み」と積極的な関与を約束した国の表立った動きもみられない。今年11月、中間貯蔵施設を含む下北の原子力施設を回った西村康稔経産相は共用案について「引き続き地元の状態をよく踏まえながら取り組む」と述べるにとどめた。

関電の森望社長は10月の会見で共用案について問われ、むつ



記者会見で質問に答える池辺会長。16日、東京都内

中間貯蔵施設は東京電力と日本原子力発電が出資する「リサイクル燃料貯蔵」（むつ市）が運営する。共用化構想は2020年12月に浮上。共同利用が実現すれば、市と協定を結ぶ2社以外の原子力事業者が保有する使用済み核燃料も搬入される可能性が生じる。

池辺会長は会見で「現時点で（検討に）着手できていない」と明言。停滞する要因を問われると「それが分かったら障壁を解くように努力するが、いまだつかみきれない」と述べるにとどめた。

一方で、中間貯蔵と同様に核燃料サイクル政策で重要な施設に位置づけられる日本原燃・六ヶ所再処理工場（六ヶ所村）について、完成へ向けて「だいぶ先が見えてきた」と強調。「そういうところもあつて少しずつ（共用化の）話を聞いてもらえれば状況になればいいと思う」とも述べた。

「検討着手できず残念」 電事連会長、共用構想巡り

むつ中間貯蔵

むつ市の使用済み核燃料中間貯蔵施設を電力各社で共同利用する構想を巡り、電気事業連合会の池辺和弘会長（九州電力社長）は16日、東京都内での定例記者会見で「進捗しておらず、（地元側と）会える状況にない」との認識を示した。電事連の構想表明から17日で丸2年。「地元理解」が「検討着手」の大前提としてきたが、「検討の着手にすら取りかかれていないのは非常に残念」と述べた。（佐々木大輔）

←↑12/17 東奥日報
こちらも不透明、そろそろ別の振興策へシフトすべきでは？

大間原発 あす申請から8年

電源開発（Jパワー）が大間町に建設中の大間原発は、2014年12月の安全審査申請から16日で8年を要施設近くの深い場所では迎える。審査は、地震の審査を見極める上で重要な基準地震動の策定に至っていない。議論が膠着している敷地内の地質構造について、なお時間を要する可能性も指摘される。Jパワーは安全強化対策工事の開始目標を2年後に延べ「24年後半」としたが、稼働時期はまだ見通せない。



地質議論 長期化の恐れも

この層は、地表近くで変位している一方、地下深い場所ではそれが深い。審査申請から16日で8年を要施設近くの深い場所では迎える。審査は、地震の審査を見極める上で重要な基準地震動の策定に至っていない。議論が膠着している敷地内の地質構造について、なお時間を要する可能性も指摘される。Jパワーは安全強化対策工事の開始目標を2年後に延べ「24年後半」としたが、稼働時期はまだ見通せない。

今年9日の町議会大間原発対策特別委員会、野崎尚文町長は、工事停止に新型コロナウイルスが追い打ちとなり町の経済は疲弊している」と訴え、「一日も早い工事の再開、運転を」と求めた。Jパワーの倉田一秀大間現地本部長は「大間原発は当社の最重要事業、全精力を傾注して取り組む」と強調した。（加藤景子、工藤俊介）

地震審査なお途上

地表近くと深い場所を別々に評価していたJパワーは方針の転換を迫られ、今年4月以降、規制庁の指摘を踏まえた評価に着手、その検討状況を現地で説明した。規制庁の担当者も、今はJパワー側の説明を待つというとしつつ「シームの議論は時間的余裕を要する可能性がある」と語る。

本年度に開かれた審査会合は計4回。審議すべき事項はまだ多く残されている。敷地内の地質に加え、残るほかの地震動の議論が終わらなければ、耐震設計の目安となる基準地震動を決められず、施設本体の本格的な議論に入れない。

大間原発は、プルトニウムを含むMOX（混合酸化燃料）を全炉心で燃やせる世界初の「フルMOX」炉だ。このため当初は、施設の審査が一般の原発より



むつ地域退職者連合第23回定期総会

連合下北地域協議会の退職者組織で構成する、むつ地域退職者連合は12月9日、むつ下北観光物産館で第23回定期総会を開催しました。総会は蒔田県退職者連合副会長、杉浦むつ市議会議員らを来賓に迎えて三上会長のあいさつで始まり、経過報告では参院選の取り組み、自治体交渉の経過などが話されました。新年度の活動方針ではコロナ禍、物価高など国民生活への影響下、「いのちとくらし」を守るための様々な取り組みを連合

新会長に大泉正志さんを選出！

本体と共に闘っていくこと、自治体要求行動や独自の学習会の開催などを確認しました。また4月の統一地方選では連合推薦候補の必勝へ全力で闘うこととしました。役員改選では長年にわたり、組織をリードしてきた三上光春会長に代わり、大泉正志さん（下北交通労組壮寿会）を新会長に選出しました。三上前会長は副会長として当面、新会長をサポートすることとなりました。

最後に以下のスローガンを確認し散会しました。

メインスローガン 安心・信頼の社会保障制度の確立で生き生きと安心して暮らせる社会にしよう！

サブスローガン ①むつ地域退職者連合の組織拡大と連帯をはかろう。②年金、医療、介護など、社会保障制度の充実を目指そう。③憲法九条を守り、平和な社会を次世代に引き継ごう。④再生可能なクリーンエネルギーを推進し、原発のない社会を目指そう。



残してほしいものは奪われ、厄介なもの
のは押し付けられる。
公共交通網だったり、学びの場だったり、
そして原子力施設。かくも寂しい故郷。

むつなど10市町村参加



設立総会であいさつする宮下宗一郎むつ市長。22日、市役所

JR大湊線の利用促進に向け、調査・研究を進める「JR大湊線活性化協議会」が22日、発足した。むつ市など10市町村の首長で構成。大湊線の利用状況や課題などの情報を共有し、活性化策を検討する。

利用促進へ調査・研究推進

参加自治体の担当課でワーキングチームを設置し、情報収集を進める。年に1〜2回会合を開き、利用促進に向けた取り組みなどを決める。オブザーバーとして、青森県やJR東日本盛岡支社、国土交通省東北運輸局が参加する。

むつ市役所で行われた設立総会では、会長に宮下宗一郎むつ市長、副会長に野村秀雄野辺地町長と石橋勝大横浜町長を選任。監事に野崎尚文大間町長と小又勉七戸町長を選んだ。

宮下市長は「路線存続の要望合戦に陥ることなく、われわれで調査研究を進め、大湊線が絶対に必要と明らかにしていくことが大切」と強調した。（松橋広幸）

大湊線活性化協発足

編集後記

年々、1年が早く感じられる。2023年はどんな年になるのやら…と思っていたらタモリさんの年末に『来年は“新しい戦前“になる』と発言したことがツイッターなどのSNSでは大きな反響を呼んでいるらしい。この巧みな“新しい戦前“という表現、恐ろしいほど身に染みつつある。戦争を体験せず育った世代にとって試練の言葉だ。時代の流れは確かにそうなりつつある。

タモリさんの言葉は、そんな政治に国民が流れないように鳴らした警鐘であろう。もう少し頑張ってみるか。今年もよろしくお願いします。

学区外通学10〜14%

小中学生 部活動参加など理由に

むつ市議会

一般質問

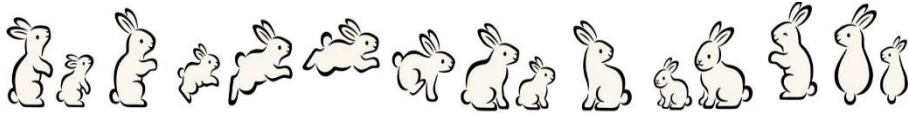
むつ市議会は9日、一般質問を続行し、4議員が登壇した。市教委は本年度、希望する小中学校の部活動に参加したいなどの理由で、学区外へ通学する児童生徒は小学生337人（10%）、中学生121人（14%）と明らかにした。

市は中学校の部活動を任意制とし、地域団体などに委ねる「地域クラブ」への移行を2023年度から順

次行つため、準備を進めている。阿部謙一教育長は「生徒のニーズに合わせた各クラブの設立を目指しており、現在よりも充実したものにしたい」と説明した。

今後、市内小中学校の統廃合の可能性について、阿部教育長は「児童生徒の減少のみで考慮されるものではない」と強調。津波浸水想定区域にあり、大畑小と統合の可能性を検討している正津川小以外の学校については慎重な姿勢を示した。（松橋広幸）

デーリー東北紙に不定期に「北奥羽の地名」シリーズが連載されていました。その中から下北に関する部分だけを拾い集めてみました。



【東通村：白糠】

東通村の南端、六ヶ所村との境には「白糠」という地名の集落がある。古くから漁業で栄え、近年は、東通原発の立地により国のエネルギー供給基地としても繁栄。東通村内で最も世帯数と人口が多い地区だ。村史などによると、白糠は1889（明治22）年の町村制施行まで、一つの村として独立していた。地名の由来は諸説あるが、アイヌ語から名付けられているという説が最も有力。「シラル」は岩や磯を、「カ」は上をそれぞれ意味しており、干潮時には平磯

が現れる海が地区の東側に広がる土地柄から、「シラヌカ」と呼ばれるようになったとみられる。北海道にも同集落と同字同音の町があり、地形的にも類似。こうした状況からもアイヌ語由来が有力という。

白糠地区には、船に加えて車で通行する際にも目印となる白糠物見崎灯台も立っており、同地区は太平洋側での“下北の入口”のような位置付け。国重要無形民俗文化財の能舞も伝承され、文化の面でも歴史が深く刻まれている。

【横浜町：源氏ヶ浦】

横浜町立大豆田（まめだ）小学校=閉校=の裏に、強固な防潮堤に囲まれた港がある。名前は「源氏ヶ浦」。「源氏ヶ岬」とも呼ばれる。「八幡太郎」の通称で親しまれる平安時代末期の武士、源義家が残した伝説が名前の由来となっている。義家は天喜元（1053）年ごろ、東北で起こっていた争乱を鎮めるため、各地を転戦。帰還のため、現在のむつ市大湊の安渡（あんど）海岸を出港したが、嵐が船を襲った。

波は高く、風は容赦なく船を揺らした。義家は、源氏が氏神と仰ぐ八幡神に祈りをささげた。すると、不思議な力により暗雲は去り、嵐は収まったという。義家一行は、すぐに近くの海岸に上陸、一人の犠牲者を出すこともなかった。その上陸地点が、現在の港の近く。海岸が源氏の名を冠するようになったとされる。

【東通村：野牛】

東通村北部、野牛川沿いにある盆地の裾野には「野牛」と呼ばれる集落がある。東側に標高301メートルの片崎山を望む街村状に発達した集落だ。1889（明治22）年の町村制施行まで、「野牛村」として独立していた地区。古くは砂鉄や松炭、石炭などを燃料にした良質の鉄を製造し、1950年以降も砂鉄の採掘などでにぎわった。村史などによると、地名は、アイヌ語に由来するとの説が有力。津軽

海峡とつながる野牛川や広大な野牛沼で介類が豊富に取れたことから、「豊漁の入り江」を指す「ヌ・ウシ」が、なまって名付けられたとみられるという。たくさんの樹木が生い茂っていたため一との見方もある。

野牛は、国の重要無形民俗文化財である「能舞」や、県無形民俗文化財の「餅つき踊り」が、青年会や婦人会によって伝承されており、歴史や文化も感じられる土地柄だ。

【むつ市（脇野沢）：九艘泊】

下北半島の最西端にある集落。1970年に国の天然記念物に指定されたニホンザル、いわゆる「北限のサル」が、初めて確認された場所だ。

むつ市や旧脇野沢村史などによると、地名の由来に確定的なものはない。だが、「九艘泊」に関しては、名付けられた由縁とみられる、さまざまな言い伝えが残っている。その一つが、かつて武士が乗った9艘の船が、嵐を避けるために避難した一というものだ。船の一つは、平安時代末

期の武将・源義経の船だったという伝説もある。さらに、集落の“入り口”にある「琵琶石」と呼ばれる岩には「弁天様が座り琵琶を弾いた」や、「義経が琵琶を弾いて天候の回復を祈った」などの言い伝えも。

地名は、こうした複数の伝説から名付けられたとみられている。15世紀中ごろに諸国回船の出入り港として認められ、港町としても開けた九艘泊地区は、現在、前沖で捕れるタラ漁が盛ん。イワシ焼干しも特産品の一つだ。

【風間浦村：下風呂】

津軽海峡に面する風間浦村を構成する三つの大字のうち、最も東部に位置し、むつ市大畑町と隣接する地域。晴れた日は北に北海道渡島地方の山々、東に東通村の尻屋崎を望む。

八戸市出身の郷土史家・笹澤魯羊（1885～1972）が著した「下北半島史」によると、地名はアイヌ語のスマ・フラに

由来。スマは「岩・石」、フラは「におい」で、周囲の岩石がにおう一との意味だという。その通り、地域には硫黄のにおいが立ち込める。室町時代から湯治場として歴史を刻んできた「下風呂温泉郷」があるためだ。現在も旅館やホテル、共同浴場があり、イカ釣りシーズンは、津軽海峡にずらりと並ぶ幻想的ないさり火を眺めることもできる。

